

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立羽根井小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒 441-8029  
愛知県豊橋市羽根井本町131  
E-mail hanei-e@toyohashi.ed.jp  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 247名 女子 218名 合計 465名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「羽根井再発見ー地域を愛し、ともに生きる羽根井っ子の育成ー」を活動テーマとして、ESDを地域に密着した学習を系統的に行う柱と捉え、ESDの実践を通して「人間性豊かな羽根井っ子」の育成を目標とした。

具体的には、①地域と係わる活動、②地域の文化や歴史に触れる活動を行った。

#### ① 地域と係わる活動

1年生は、「ようこそはねい小へ」をテーマに、学校の近くにある保育園の年長児の子どもたちを招いて、入学に向けての交流会を行った。1年生が考えた遊びを園児に教えながら、いっしょに楽しんだ。約1時間の活動では、1年生がお兄さんお姉さんぶりを見せ、お互いに楽しく活動することができた。この活動を通して、計画を立て、調整しながら準備・実行する力や、コミュニケーション能力を高めることができた。

2年生は、「お年寄りを楽しませよう」をテーマに、学校に隣接する老人福祉施設「明陽苑」を年に7回訪問し、高齢者と触れ合う活動を行った。高齢者の方も知っている伝統的な遊びをいっしょに行ったり、学習発表会で発表し

た劇を見ていただいたりする活動を重ね、交流を深めた。この活動を通して、企画力やコミュニケーション能力、そして何よりも相手をいたわる福祉の心の大切さを知ることができた。

3年生は、「わたしたちの町・大好き羽根井～豊橋」をテーマに、校区内や校区の近くにある店や工場について見学し、調べたことをまとめ、発表する活動を行った。特に、子どもたちが実際に行ったちくわの製造体験は、この地域が海の幸に恵まれた地域であることを実感できるものであった。この活動を通して、情報を収集する力や発表する力、また、人と関わる力を伸ばすことができた。

4年生は、「羽根井エコキッズ大作戦」をテーマに、地域を取り巻く環境問題や自然環境に関心をもち、調査活動を通して環境保全の大切さを学んだ。子どもたちが卒業後に入学する中学校の中学生といっしょに校区を流れる牟呂用水のクリーン活動も行った。ともに清掃をする中で、多くのゴミが捨てられていることから、ゴミを捨てることなく、自分たちの住んでいる地域をもっときれいにしていきたいという気持ちを高めることができた。学習を通して、学んだことをまとめる力や、わかりやすく発表する力を高めることができた。

## ②地域の文化や歴史に触れる活動

3年生は、「大切にしたいな豊橋・羽根井～昔の生活や祭り～」のテーマで、まず豊橋や羽根井校区の昔の生活や様子を調べる活動を行った。学校に保存してある昔使っていた道具などを実際に触ったり操作したりして、知識を深めた。そして、まちの歴史に詳しい方々から、身近な羽根井校区近辺の祭りや、豊橋で伝統的に行われている祭りにまつわる話を聞き、自分たちの感想や考えを加えてまとめ、お互いに発表した。この活動を通して、さらに豊橋・羽根井の歴史に対して、興味や関心だけでなく愛着をもつようになった。

6年生は、豊橋ユネスコ協会の方々を講師として招き、豊橋公園の戦争遺跡について説明を聞いたり、写真や映像を使って豊橋空襲の様子を詳しく知ったりする活動を行った。校区に住んでいた方が戦時中の生活の様子や、実際に体験した空襲の恐ろしさを、実体験を交えて話してくださり、子どもたちは戦争の悲惨さについて改めて考えることができたとともに、平和の大切さとそのために自分たちができることについても考えることができた。学習したことをグループでまとめ、授業参観で友達だけでなく、多くの保護者に向けても発表した。



保育園児に優しく遊びのやり方を教える1年生。すっかり気分はお兄さんお姉さんです。



自分たちが地域の方に聞いたりインターネットで調べたりしてまとめた戦争に関することを発表する6年生。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・知るほど豊橋 4 「手筒花火」 10 「鬼祭」	・日本の祭り事典
--------------------------	----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習や生活科の中で、ＥＳＤを通じて育てたい資質や能力を明確にして教育課程を編成するように努めている。また、総合的な学習では理科・社会などの教科と関連させて計画を立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習および生活科主任が各学年の活動を助けている。また、教頭を窓口に関地域の諸団体や保育園、企業に協力を依頼するとともに、学校行事に招待するなど良好な関係づくりに努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

保護者には学校評価アンケートを実施し、学校活動に対する評価を実施するとともに、有識者である学校評議員には具体的なアドバイス等をいただいている。それらの結果から、成果は地域と連携した教育活動がしっかりとされていることであり、課題は情報発信力にあることがわかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

保護者への学校・学年通信や地域への学校新聞で活動目的や内容、子どもたちの活動の様子、感想を発信している。学校の活動がたいへん分かりやすいと好評を得ている。そのため、地域の協力が得やすくなっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクール豊橋大会や愛知県ユネスコスクール交流会に教員が参加し、ワークショップやポスターセッションなどの発表を見学することで、ESD活動に関わるプレゼンテーションスキルの向上や活動の充実に関する指導方法の工夫・改善に役立った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール交流会に教員は参加できたが、子どもたちの市外や国外のユネスコスクールとの交流には至らなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

子どもたちが地域にある文化的な遺産に初めて目を向けることができ、地域に対する愛着がより深まっている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今まで毎年行ってきた活動を継続するとともに、総合的な学習および生活科の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容をより詳しく定め、指導方法のさらなる工夫改善に努める。また、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習過程を重視した教育課程を編成するようにする。